

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年5月6日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691200374
法人名	医療法人 春成会
事業所名	グループホーム うのき
所在地	鹿児島県霧島市国分中央三丁目19番8号 (電話) 0995-45-5580
自己評価作成日	令和5年4月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年4月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・のんびりとした雰囲気の中で安心して生活ができるように心掛けています。
- ・各居室にトイレを設置し、プライバシーに配慮し、また広々とした居室でゆったりと過ごして頂けます。
- ・医療機関に隣接しており急変時等にも迅速に対応致します。
- ・併設している様々な事業所の利用者と行事等での交流があります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は母体医療機関に隣接して建てられている。同一建物内に小規模多機能ホーム及びサービス付き高齢者住宅が開設されており、コロナ禍のため事業所利用者間の交流は見合わせているが、合同の避難訓練や会議・研修の実施等、職員間の協力体制は維持されている。
- ・利用者全員が母体医療機関をかかりつけ医としており、定期受診及び看取り期や緊急時を含めた24時間の医療連携体制が築かれている。また、看護職の配置もなされていることから健康・医療面における本人・家族の安心となっている。
- ・コロナ禍のため面会が制限されているが、地域交流室での面会やライン面会のほか、毎月写真と近況報告を家族に送付し、家族とのつながりが途切れないように支援している。相互の精神的な安定を図るため看取り期の面会にも対応している。
- ・管理者は看護・介護のリーダーと共に職員が意見を出しやすく働きやすい職場環境づくりに努めている。法人としてまた管理者は職員の資格取得や研修受講を支援し、資質向上を図っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念を掲げ、月1回の職員会議で唱和することで意識するようにしている。	事業所独自の理念を検討した結果、法人全体の理念を継続することにした。エレベーターホールに理念を掲示し、毎月の職員会議で唱和・確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において、現在はできていないのが現状である。	市報で地域の情報を把握しているが、コロナ禍のため地域との交流は見合わせている。有償ボランティアのみ受け入れて、清掃とコミュニケーション活動を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	コロナ禍において、現在はできていないのが現状であるが、電話での相談等はあるのでその都度対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍において、運営推進会議は活動報告にて行っている。	2ヶ月に1回の運営推進会議は書面開催で、行政・各委員には事業所の状況報告等の資料をメールで送付している。事業所の取り組み状況を理解してもらえるよう写真入りで作成し、運営に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	2ヶ月に1回の活動報告を行い、また防災訓練報告も同時に行っている。	日頃から市の担当者と連絡や報告をメールで行っているほか、申請等で窓口に出向き連携を図っている。市主催の福祉祭りは参加を見合わせたが、研修は受講し情報を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する勉強会を年2回開催し、基本的な考え方をスタッフで共有している。	法人で委員会を毎月開催している。事業所では指針を作成し勉強会を年2回実施している。拘束三原則やスピーチロックなど、基本的なことを再確認し理解を深めている。日中の玄関施錠はせず、職員の見守りで拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の尊厳に関する勉強会を年1回開催することで、日頃の自分達の仕事を見直し、今後のケアに活かせる機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関する勉強会を年1回開催することで、日頃の自分達の仕事を見直し、今後のケアに活かせる機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	コロナ禍になり、現場見学が出来ない状況だが、契約の際にはある程度ご理解頂いたうえで詳細を説明し最終確認を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍において思うようにはできていないのが現状であるが、電話での報告やその都度相談に乗るようには心掛けている。	本人の要望は日常の会話や表情等から把握し対応している。家族には面会時や電話で思いや意見等を聞いており、差し入れについての照会などもその都度対応するように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関する意見については、その都度職員からの意見を聞き、必要に応じて対応している。	毎月の勉強会・連絡会で職員の意見を聞く機会を設けている。個別相談は主に各リーダーが受けている。物品購入については職員の意見を入れて行っており、ケアに対する考えは全員で共有し反映するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	月の休日はしっかりと取れるように勤務を組み、できる限りの希望する休みを取れるように配慮している。年2回の自己評価を実施することで昇給等に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月に1～2回の法人内の勉強会を開催するとともに、外部開催研修案内も行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の連合会に加入し、勉強会や活動に参加している。また外部の研修会に参加することで個々のスキルアップ、交流にもつなげているが、コロナ禍において思うようには出来ていない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人の要望を直接聞くこととしている。聞き取りが困難な場合は家族から聞き取りを行っている。利用後は安心できるように声掛け等を密にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の要望はもちろんのこと、家族の要望を聞き取ることとしている。また利用者本人だけでなく、家族の健康状態や家族状況等を聞き取ることによって関係作りを図るように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは利用者が今どういう状況なのかを今までの生活状況踏まえて聞き取ること、判断している。グループホームとはどういう所かをしっかりと理解いただく為に説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にお茶を飲み、一緒に洗濯物をたたんだりする場を持つことで利用者に寄り添えるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会が制限される中で状況に応じて直接面会やLINE面会を実施し、少しでも絆が阻害されないように心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で家族以外との交流は出来ていないのが現状である。	家族とのライン面会や他科受診同行時の交流及び事業所からの手紙・写真等の近況報告で、家族とのつながりが継続できるよう支援に努めている。看取り期は感染対策を行った上での面会に取り組み、本人・家族の精神的安定を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話が困難な場合はスタッフが間に入り、意思疎通の橋渡しに心掛けている。またソファ等に寄り添う場を持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もその後の利用機関と情報交換を行っている。状況に応じてその後の再入居の支援にも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの意向や希望は家族からの聞き取りと合わせて把握するように心掛けているが、困難な場合は行動や言動を尊重しながら対応している。	日常の会話や表情・言動から本人の思いを把握するようにしている。困難な場合は、家族の情報を参考に要望等をくみ取るように努め対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を把握することはもちろん、日頃の会話や家族からの情報等で更にその方の生活歴を知ることにも努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホームの流れはあるが、一人ひとりの状態に合わせた支援に努めている。また日々の状況を把握し、その時に合わせた支援を心掛けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なミーティングと日々の申し送り等での意見を反映させ取り組んでいる。	本人や家族の希望を聞き、ミーティングや申し送り時の職員の意見を入れて介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎に実施し、見直しは6ヶ月毎に行っている。状況変化時にも現状に合った計画に見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケア記録に記載し、排泄、食事、水分チェックはそれぞれで記録し共有している。その中で変化に気づき、その都度対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	心身的にも様々な方が入居している中で一人ひとりに合った対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において思うように出来ていないのが現状である。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診だけでなく、突発的の事に関してもすぐに相談できる体制をとっており、早めに対応できるように心掛けている。	全員がかかりつけ医は母体医療機関を希望し、4週に1回の定期受診を受けている。朝晩の医師の声掛けがあり、24時間の医療連携体制で緊急時に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>病状変化等に関しては看護師と連携をとりながら情報交換している。またかかりつけ医にも常に状況報告することで適切に対応できるように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医療機関が隣接していることもあり、急変時には早急に対応できている。また情報を共有すること、また訪問することで安心して治療できるように支援している。病状の把握にも努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に重症化における家族の考え方などを話す様になっている。必要な場合は書面にて同意を得る様になっている。</p>	<p>契約時に指針を基に説明し意向を確認している。同意書ももらう場合もある。状況変化時の医師説明後に終末医療・看取りの意向を確認し同意書ももらっている。看取り介護中は職員間の情報共有を図っている。コロナ禍の3年間で5件の看取りを実施した。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>観察する視点や重要性を学ぶとともに、急変時の医療機関との連絡体制を構築している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署指導の下、避難訓練は隣接の医療機関と合同で行っているが全職員が自信をもって行動できるように更に取組みが必要。災害時に備え、備蓄品を配備している。地震時や水害時の訓練に関してはまだまだ不十分である。</p>	<p>同一敷地内の法人全体の施設で火災避難訓練を年2回、水害避難訓練を年1回実施している。コロナ禍のため、消防署の立ち合いはなく地域や運営推進会議委員への訓練参加の声掛けもしていない。月1回は通報テストを行っている。地域密着連合会と市は災害時受け入れの協定を結んでいる。非常用の備蓄は、3日分の水・ごはん・レトルト食品等の食料を確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として声掛けには十分注意している。失禁の時は周りに配慮しながら声掛けを行っている。	年1回の研修を実施し、さん付けでの呼びかけや入室時の声掛け・ベッド上の更衣時はバスタオルを掛ける・ベッド上の失禁は同性対応にするなど、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮しケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や行動等でも読み取れるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の体調に合わせて、起床時間や休息など臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	居室の洗面所には大きな鏡があり髪の毛等を整えられるようにしてある。また居室にはクローゼットもあり様々な洋服を用意されている方もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房で作っており様々なメニューで対応している。また季節や行事に関する食事でも楽しんで頂いている。メニューの案内をすることで楽しみを持って頂いている。	食事は厨房からの配食で、個々に応じた食事形態で提供している。誕生日のケーキや季節の行事食も食事を楽しんでもらえるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは管理栄養士の基確保されている。水分量も適時チェックしながら一日通して確保できるように心掛けている。またなるべくおいしく飲んでいただけるように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各居室の洗面所にて、各自清潔にうがいや義歯洗浄できる環境になっている。夜間は義歯は外し、水や薬剤に漬けて清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的な誘導やその方の表情、パターン、サイン等を観察することで排泄の支援を個々に行っている。	基本的に日中は居室のトイレを使用しており、夜間はポータブルトイレを使用する利用者もいる。チェック表で把握したパターンや本人の素振りを見て声掛け誘導等の支援を行っている。入居時からの布パンツ使用を維持できている利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分が十分摂れるように、味や形態を工夫することや、乳製品等を個々に応じて提供しており、散歩等での運動機会を設けている。また必要に応じてかかりつけ医と相談しながら下剤等で調整している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週2～3回の入浴を基本としているが、体調や希望に応じてその都度対応するように心掛けている。夜間は行っていないが、午前、午後の希望を聞き入れるように心掛けている。	週2～3回を基本に入浴支援を行っており、時間は希望や体調に応じて対応している。1対1の入浴を実施している。嫌がる場合は、無理強いせず毎日声掛けし、タイミングを見て支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも自室で休めるように環境を整えている。本人の要望や夜間の睡眠状況を把握し、その都度昼間の休息にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルし、いつでも確認できるようにしている。変更等があった場合にも申し送り確認している。また症状改善見られない場合等はかかりつけ医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎の催しを企画し、楽しみや季節感を感じて頂くようにしている。また可能な限り、今までの趣味が出来るような支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>コロナ禍において思うような外出支援はできていないのが現状であるが、散歩など出来る限りのことをしている。</p>	<p>近隣の散歩やベランダでの日光浴を行い、できるだけ室内に閉じこもらないように配慮している。受診時に家族とドライブしている利用者もいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の所持を制限していることはないが、現在の利用者では自ら所持し、買い物等で使用する機会はない。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>自前の電話を持っている方もいる。手紙のやりとりは困難である。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>温度や湿度管理を行い快適に過ごせる空間作りに努めている。毎月のカレンダーでは季節の貼り絵を一緒に作成しフロアに掲示。また季節感のあるもの（折り紙での季節の花等）を掲示することで、季節を感じて頂いている。</p>	<p>フロアは空気清浄機や加湿器・サーキュレーターで適度な室内環境に調節し、換気は窓を開けて行っている。壁に飾ったカレンダーや作品で季節を感じてもらったり、和室からベランダに出た日光浴やソファ・和室でゆっくりとくつろげるように工夫している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロア以外にも畳部屋があり、くつろげる場所を用意してる。またソファもあり、食事席以外での一人、または少人数で寄り添える場を設けている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>コロナ禍において、家族が居室に入れない状況であり、思うようには出来ていないのが現状であるが、居心地の良い環境作りには努めている。</p>	<p>広い居室には、電動ベッドや洗面台・トイレ・クローゼット・エアコンが備えてあり、寝具はリースである。本人は使い慣れたテレビやタンスを持ち込んだり、写真・ぬいぐるみを身近に置き安心して過ごせるように部屋作りをしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各居室に分かりやすいように表札を掲示することで、出来るだけ自ら自室が分かるようにしている。また必要な方にはトイレも同様に掲示している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない